

授業科目名	動物行動学Ⅱ		科目コード	2403022	
開講クラス	動物健康管理学科	コース	動物園・水族館・ドッグインストラクターコース	学 年	2 年
担当教員	出口智久				
	実務経験教員（ ☒ 有　・　無　） 実務経験内容 宮崎市フェニックス自然動物園管理株式会社前園長				
開講時期	前期・後期・ ☒ 通年・特別講義・その他		授業コマ数	31 時間	
	☒ 必 須　・　選 択　・　選択必須		単 位 数	1 単位	
使 用 テキスト1	書 名				
	著 者				
	出版社				
使 用 テキスト2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書					
授業形態	☒ 講義　・　演習　・　実習				
<授業の目的・目標> 愛玩動物のみならず、野生動物の行動学を主として、展示動物での飼育に活用できる行動原理を学ぶ。展示動物の使用で重要となる動物福祉の観点から、採食行動や繁殖行動に至る重要事項や、展示動物によく見受けられる常同行動など、予防措置や対処方法などを学ぶ。					
<授業の概要・授業方針> 「動物行動学Ⅰ」「しつけ・トレーニング実習Ⅰ」で学んだ知識を活用し、行動学の知識を、問題行動の治療や就職してからの現場に活かし、動物たちの心身の健康増進に役立て、アドバイスが出来る様にする。					
<成績基準・評価基準> 前期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。					
<使用問題集・注意事項>					
<関連科目他> 動物行動学Ⅰ しつけ・トレーニング実習Ⅰ・Ⅱ					

授業科目名		動物行動学Ⅱ
回	授 業 内 容	備 考
1	動物の行動とは：原理や定義	
2	動物行動のレパートリー	
3	動物行動の発現（内面的メカニズム）	
4	同上（環境由来）	
5	同上（動物行動の必然性）	
6	動物福祉と行動（ウェルビーイングを考える上での定義）	
7	同上（自然な行動）	
8	同上（自然でない行動）	
9	同上（正常な行動）	
10	同上（異常行動）	
11	同上（感情の状態）	
12	要求と完了行動	
13	種によって異なる要求と行動	
14	動物行動の実例を探そう（集団と単独の行動の特性）	
15	同上（採食行動についての事例）	
16	同上（繁殖行動：ペアリング、子育ての実例①）	
17	同上（繁殖行動：ペアリング、育雛の実例②）	
18	同上（安全性確保の行動、移動行動）	
19	ストレス（良いストレスと苦痛）	
20	同上（ニーズの違いを考える）	
21	促進すべき行動とは何か	
22	上記のエンリッチメント	
23	抑制すべき行動とは何か	
24	同上（常同行動）	
25	同上（キリンのなめ行動の実例）	
26	動物園で知られる行動実例①	
27	動物園で知られる行動実例②	
28	自然で知られる行動例（ウミガメ、シカ、カモシカ他）	
29	動物福祉に関与する行動の整理(4つの行動の整理)	
30	動物行動学（動物園関連）の学習評価	
31	動物福祉（アニマル・ウェルフェア）について （ディスカッション）	